



笑顔が輝く学校をめざして

2016・12・20

市校長会との懇談より

長時間労働の解消に向けて

【部活動の大会への参加制限を】

組合 教員の長時間労働のネックになっているのは部活指導だと文科省も言い始めたところである。部活がなくなればもっと本務に手がかけられるようになる。ところが、それに逆行するようにこの秋、小学校ではバスケットの大会（市民体育大会）が増えた。教職員の多忙化を考えると学校サイドとして断るべきではないか。

（市民体育大会のバスケの部の参加枠を小学生にも拡大することに賛成）協会側からの相談は、校長会にはなかった。突然のことであつたので、学校毎の判断で参加を決めた。担当教員の熱意、子どもや保護者の試合に出たい（出させてやりたい）という気持ちを考えると、参加・不参加の判断は悩ましいところである。

校長会 せっかくジュニアクラブシステムを作ってきたのに、小牧では活用しきれないのが残念。他地区では教員が関わってないところもある。そういう状況になってくれないとよい。

組合 学校単位でなくとも参加できる

し、教員の多忙化を食い止めるためにも校長のリーダーシップで歯止めをかけるべきである。

部活動指導が教員が本来の仕事に勤務時間中に専念する上での妨げになっていることは、県の多忙化解消会議の中で何人かの委員が指摘していたところである。多忙化に拍車をかける部活の大会の増加には、校長会として声を大にしてストップをかけてほしいものである。ジュニアクラブのあり方の見直しも含め、教員が部活動指導に携わらないでもすむ体制を早急に構築する必要がある。

【すべての学校に勤務時間外の

在校時間が分かる記録簿の設置を】

校長会 （はみ出し時間の分かる在校時間）記録簿の様式が学校によってバラバラで、計算式も違っている状況。役員会でも校長会でも話題になっていて、これだけ突っ込んだ議論は初めてである。どんなシートがよいか現在検討中である。

【「日常の勤務」における

割り振り変更簿」の設置を】

組合 県は設置するよう指導している。小牧市は以前はあったのに今はなくなっている。作るべきではないか。

校長会 （超過勤務には）管理職が「早く帰らまじよう」とか非常に「気を遣っている」。

県教委は、「客観的なもの」で割り振り変更を行うことが望ましい」と交渉の場で繰り返し回答している。愛日地区は今年度の調査でも、割り振り変更簿を設置している学校は0と報告されている。口頭ではなく、割り振り変更簿により、気兼ねなく帰ることができるような職場が望まれる。

【休憩時間及び勤務時間外の

部活動指導の割り振りを】

組合 勤務時間外の部活はボランティアだと言われているが、実際には勤務である。少なくとも休憩時間中の部活動指導は割り振りされるべきである。

県教委の調べでは、勤務時間内だけで部活動を実施している小中学校は県内にはないそうである。時間外にわたることが分かっていて、部活動を担当させるのは、明らかに「教員には時間外勤務を命じることができない」と規定している「給特法」違反である。少なくとも、部活動指導をするしないの自由が教員に与えられるべきである。

【職場における多様な勤務形態の

教職員の勤務時間の全職員への明示を】

組合 職場によっては職種ごとの勤務時間や文書で提示されている学校がある。全市的に文書による明示があるように。

【再任用（ハーフ）職員の勤務時間の

適正な割り振り運用を】

組合 ハーフ再任用同士で情報交換をし

合ったところ、中には教科を持って評価しているため、決められた勤務時間内にはとても仕事が終わらないというケースがある。再任用ハーフは評価の必要な教科は持たせないなど勤務の基準はないのか。

校長会 中学校では1教科を二人で持ってもらわないといけない場合などは当然評価も必要になってくる。実情によって違つので一概に決められない。

組合 校長会としてある程度の線を決める必要はないのか。中には1週間に16コマ授業を持っているため教材研究や事後処理は時間外や持ち帰り仕事になっているという話も聞く。

校長会 本校（中学校）でも別々の教科だが二人の再任用ハーフがいて評価もしている。各12コマの授業を持っている。

組合 昨年度は16コマパンパンに授業を持っていた例があつたが、今年度はどうなっているか。

校長会 16コマは厳しいでしょう。今年度は16コマ持っているケースはないと思う。

校長会 今年度も再任用（ハーフ）で16コマの授業を持たせている学校は存在するようである。校長会で、上限は15コマ、評価を必要とする教科を持つ場合は、12コマまでといった基準は設けるべきである。

【労働安全衛生体制の確立に向けて

【療養休暇・「子」の看護休暇・短期介護休暇等の「年休」以外の休暇も取りやすく】

組合 ほとんどの教員が前掲の休暇を時間単位で取れることを知らない。取りやすくすることが大事。年休・特

体処理簿と一緒に綴じておくことで意識が高まる。他地区ではそのようにしている所もある。簡単にできることなので小牧市もぜひ実現してほしい。

校長会 一緒に綴じてはないがそのような休暇があることをその都度紹介している。個々に綴じる必要性は感じていない。

【アスベストの存在と安全対策の職員と地域・保護者への周知を】

組合 古い学校はどこも飛散防止工事しているもの、アスベストが存在する。今後震災などで学校が避難場所になる可能性もある。また、大規模工事などで飛散する可能性もある。不安をかきたてる必要はないが、アスベストの存在と対策を周知し、地域や保護者に理解しておいてもらう必要はないのか。

校長会 市教委がアスベストの存在箇所を図面に落とし今年各学校に配ったが、それは業者が厳密に調査したというものではなく、現職員が申請したものに基づいているので正しいとは言いがたい。また、校舎を造った時の図面には「アスベスト使用」については触れられていない。信憑性がないものなので、周知することはないか。

アスベストの存在は、市が正確な調査を行い、災害や校舎の建て替えの際に飛散することを想定した安全対策を講じるべきである。

【男女別休養室の整備状況について】
組合 昨年度と比較して進展はあった

か。
校長会 毎年予算要求を出しているが進展はない。
組合 一宮では市に予算措置要求を出した1校にのみ休養室が実現した。

【教育予算の増額を】

【全特別教室へのエアコン整備を】
組合 中学校は昨年度から使っている。小学校は最初の計画では本年度から使える予定だったが、この冬休みから工事に入るとのことだ。校長会は特別教室についてはどのような要望を出しているのか。

校長会 最初是全教室にエアコンを要求したかったが、小学校に設置されていない時期の要求であったので、小学校の普通教室に確実に設置してほしいという要望にした。新設校には音楽室にもエアコンがついている。また、近隣からの騒音苦情を考慮して後付けで設置した学校もある。校長会としては普通教室への設置状況をみてから次の要求へと進める。

来年度夏から全小学校でもエアコン使用ができるように工事が進んでいることは喜ばしいことである。しかし、音楽室、理科室等の特別教室は設置の対象外である。特に、音楽や理科の専科教員にとっては、ずっと暑い教室で勤務しなければならず、過酷な労働条件が放置されることになる。引き続き、特別教室へのエアコン設置を求めている。

【プール清掃の業者委託を】

校長会 昨年度他市の実施状況を紹介してもらった。「必要ない」とは言わないが、現場からの声待ち状態である。

もう少し声が上がれば要求項目に入れる。近い将来要望するに足る要求項目だと思っている。最優先はエアコン。

【学力テストの事前対策はしないように】
校長会 事前対策は一切していない。

小牧市教労と愛教労は、一貫して、子どもたちを苦しめるだけで、予算の無駄遣いとなる悉皆による全国学力テストへの参加をしないように市教委や県教委に申し入れを行っている。

【道徳と英語の教科化に向けての対応】

校長会 「英語教育推進委員会」が各学校で夏休みに教員の研修を行った。

組合 大山市では、市単独で資格を持った専任教員を配置するよう要求している。英語を教科化するならば国が専科教員を配置するべきだと思つが、そうならなかった場合は県・市に専科教員配置を要望した方がよいのではないか。

校長会 今は次期学習指導要領がどのようなものかわからない状態。このような状況では要望の根拠がない。また、英語の専科教員を要求すれば他の分野が削られるのではないかと心配である。

組合 (道徳の教科化に関して)児童・生徒の内心の評価をするのは難しいと思つ。

校長会 どんなものが出てくるか注視している。

小学校で英語を指導するには、専科教員の配置が必須である。免許もない教員に研修などで新たな多忙化の要因を作つてはいけない。また、本当に小学校にお

いて英語教育が必要なのか論議をすべきではないか。

道徳の教科化によって子どもの内心の自由が侵されてはいけない。よい評価をもらうために表面的にだけ優等生を演じる子どもをつくってもいけない。

【小牧市とJAXAの協定締結について】

組合 国内での様々な状況からみて、軍事産業や自衛隊との関わりが心配される。実際、東京でJAXAの展示会があったが、軍事産業や航空自衛隊が関わっていた。

校長会 小牧市はクローマ(KUROMA)が平成21年度からジュニアセミナーで宇宙の学校を実施している。理科の教材として授業に取り入れたいと思つような魅力的なものがあるなど注目しているが、
組合 JAXAは軍事と結びつきの深いところだといつことを考慮に入れておいてほしい。

懇談を終えて

非正規雇用が拡大し、経済格差が広がっている今日、働き方や家庭のあり方も多様化している。それに伴い、保護者の教育へのニーズも多様化している。個人では背負いきれない悩みを抱えている人が年々増えてきているように感じる。その様な中でも、子どもたちの「人格の形成」のために適進するのが学校の使命である。

教育の充実のために先立つのは、予算であるが、ある企業が「子どもたちのために役立ててほしい」と小牧市に3億円もの寄付をしたと報じられた。校長会としても有効な使い道を要望していただきたい。